



原発事故から8年目を生きる

「それぞれの選択」 尊重し合うために。

原発事故によって、放射能のリスクは私たちに広く降りかかりました。放射能の影響については、人によって考え方がさまざま。政府が一方向的に基準を定めるなかで、不安や葛藤を抱えている人も少なくありません。そんななか、映像作家の鎌仲ひとみさんは、被災地に住み続ける人、自主避難した人など、さまざまな「選択」をして生きる人の姿を撮影し続けてきました。その経験から、わかり合える仲間を見つけて行動し、そのうえで考えが違う人の「選択」も尊重し合って生きていくことが大切だと語ります。



映像作家 鎌仲ひとみさん

早稲田大学卒業と同時にドキュメンタリー映画制作の現場へ。カナダ国立映画制作所、米国・ニューヨークでのメディア・アクティビスト集団への参加を経て、1995年に帰国。主な監督作品に、『ミツバチの羽音と地球の回転』(2010年)、『小さき声のカノン』(2015年) など。

<http://kamanaka.com/>

小さな不安や葛藤を、 語り合えることの大切さ

映画『小さき声のカノン』(2015年公開)の制作では、福島第一原発事故のあとに地元に住み続ける人、避難した人、さらに除染や保養、日々の食べ物のことなど、お母さんたちのさまざまな『選択』を撮り続けました。事故後、年数が経ち『もう安全だ』という空気が広がるなかで取り残され、葛藤する『小さき声』と、その声に従ってお母さんたちが動くことで生まれてきた希望を伝えたかったからです。

じつは、映画を公開した後もずっと、ライフワークとしてお母さんたちや被災者を撮り続けているんです。メディアは何か起きたときだけ取り上げるけれど、現実の生活はずっと続いていきます。原発事故から時間が経って、もう終わったことのように考える人もいれば、放射能のリスクを避けるライフスタイルが定着した人もいます。

だけど、放射能の不安と向き合い続けることに『ちょっと疲れたな』と感じている人も多いんじゃないでしょうか。何が起きても、政府や科学者が『放射線の影響とは考えにくい』と繰り返すなかでは、不安を周囲に口にするささ大変です。そうやって『小さき声』が、ますます表に出にくくなっていく。

もっと
知りたい人へ



139106 DVD

小さき声のカノン
——選択する人々 (DVD)

4,050円(税込4,374円)

●カラー●音声:日本語●字幕:英語●約119分●2016年12月8日発表●ぶんぶんフィルムズ●希望小売価格4,860円

福島県二本松市の母子。放射能汚染は心配だったが、地域に残り家族で暮らすことを「選択」した。『小さき声のカノン』より

『小さき声のカノン——選択する人々』(2015年/119分)
原発事故の議論からこぼれ落ちてしまう、不安な気持ちを抱えたお母さんたちの声。ベラルーシのお母さんたちへの取材も交え、迷いながらも自分たちの意志で動き始めた日本のお母さんたちの姿を追う。
出演:福島県二本松市のお母さんたち 他

どんな「選択」も間違いではない 大切なのは、尊重し合うこと

放射能のリスクにどう対応するのか、迷うことがあると思います。どんな人でも心の中に不安や葛藤はあるけれど、それでも自分で選択する力をもっているはず。ひとりで悶々と考えているときにはわからなくても、誰かに話を聞いてもらっているうちに、自分で自分のなかにある『小さき声』に気づいていく。だから、安心してそれを語ることでできる仲間が大事なんです。

私が会ったお母さんたちのなかには、罪悪感を抱えている人もいました。被災地に夫や親を置いて逃げてきたという罪悪感もあれば、反対に、事故直後に子どもを連れてすぐに避難させてあげられなかったという罪悪感をもつ人もいます。でも、『100%絶対的な正解』なんて存在しないのだから、自分の生き方として選んでいくしかないのです。みんなが同じ選択である必要はないし、まして人の選択をジャッジ(審判)する権利は誰にもありません。違う選択をする人がいたら『あなたはそういう考え方なんだね』と受け止めればいい。お互いへのリスペクト(尊重)が社会の根底にあれば、無用な対立や分断を生み出すこともなく、もっと問題解決に近づけるのではないのでしょうか。

ひとりの声は小さくても、 やがて社会を変える大きな力に

原発事故が起きてしまったのは紛れもない事実です。だけど、健康へのリスクを減らすことはできます。食品に気を付ける、免疫を上げる努力をする、定期的に健康診断を受けるとか、前向きにできることはたくさんあります。約30年前のチェルノブイリ原発事故を経験したベラルーシのお母さんたちにも取材しましたが、現在までそうやって工夫しながら暮らしてきました。

さまざまな情報に流されるのではなく、まずは客観的になることが必要です。たとえば食品への不安があるなら、信頼できる放射能検査のデータを見て現状を知ろうとすること。食品メーカーに直接電話をかけて『放射能検査はどうしていますか?』と、聞いたっていいと思いますよ。

そうやって声を届けていけば、食品メーカーも意識するようになりますよね。私たちの姿勢で社会が変わっていく。ひとりの声は小さくても大きな力になるんです。

自主的に食品の放射能検査や甲状腺検査を始めたお母さん、お父さんたちも取材してきました。自分で考えて選択し、ポジティブに仲間と一っしょに行動を起こしている人たちが全国各地にたくさんいる。それは希望だと思います。

放射能検査状況について

パルシステム自主検査の報告

〈2017年度の検査数(カッコ内は検出件数)〉 2017年11月24日現在 不検出率:98.7%

青果	416 (0)	牛乳・乳製品	30 (0)	飲料水・飲料	65 (0)
しいたけ	49 (28)	肉類・卵	33 (0)	その他(加工)食品	1365 (0)
きのこ類 (しいたけ除く)	69 (1)	魚介類	212 (0)	総計	2486 (32)
米	69 (2)	乳幼児用食品	178 (1)		



パルシステム商品検査センター

測定方法について

パルシステムでは、検出数値が正確な「ゲルマニウム半導体検出器」2台を使用しています。食べられる部分を取り出し、細かく切るなど下処理をして、測定容器にできるだけ詰め込み、外部の放射線の影響を受けないように厚い鉛の容器で遮断して、精密な測定を行います。

〈検査結果:2017年度の状況〉 ※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。

青果	今年度は、放射能の検出はありません。
しいたけ	生しいたけ(3.1~16Bq/kg)で放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	お料理セットのまいたけ水煮(3.3Bq/kg)で放射能が自主基準内で検出されました。
米	2017年産米の検査は27産地69検体の検査を行いました。日本の稲作を守る会の栃木こしひかり(玄米)を検査したところ、2件(3.1、4.8Bq/kg)の検出がありました。検出された玄米を白米で再度検査した結果、検出はありませんでした。 ※放射能の多くはぬか部分に蓄積します。検出されました栃木こしひかりは、白米でのお届けとなります。
牛乳、肉、卵	産地ごとに定期的に検査しており、今年度放射能は検出されていません。

魚介類	魚介類で放射能は検出されていません。
乳幼児用食品	検出下限値1Bq/kgで検査を行い、冷凍さつまいもスティック(1.3Bq/kg)から自主基準内で検出されました。
その他食品(お料理セット)	菌茸類については定期的に検査を行っており、しいたけおよびしいたけ水煮(3.1~8.2Bq/kg)、まいたけおよびまいたけ水煮(3.3Bq/kg)から自主基準内ですが検出されています。その他のお料理セットで使用されています菌茸類(えのき茸、マッシュルーム、ぶなしめじ)からの検出はありません。
その他食品(大豆加工品)	豆腐、納豆、味噌、醤油など大豆加工品は、2015年産および2016年産原料で検査を行っているものと、製品で検査を行っているものがありますが、放射能は検出されていません。
その他食品	今年度は、放射能の検出はありません。

原発事故被災者支援の形。

支えあう地域社会へ

東京電力の原発事故の影響は、誰にとっても人ごととは言えません。被災地の子どもへの外遊びの機会を設ける活動を行ったり、自主避難者の相談を受け必要な支援へとつなぐ活動を行うなど、支援活動を続ける民間団体があります。

【福島の子どもたち保養プログラム】

～子どもたちに思う存分外遊びを～

原発事故8年目を迎える今、福島県では除染作業がすすめられ多くの地域で放射線の空間線量は下がってきています。しかし、放射線への不安が完全に消えたわけではなく、局所的には高線量の場所もあるため、子どもたちを屋外で遊ばせることに不安を感じる保護者は数多くいます。そのような中パルシステムでは、福島県の組合員を主な対象に、県外の自然の中で週末を過ごす「週末保養プログラム」を実施しています。2012年から始めたこのプログラム。年々、回数と参加者が増え、2016年度はグループ全体で24回実施し、683名の親子が参加。山形県川西町や、新潟県阿賀野市、その他各主催会員生協の地元地域を訪れています。費用は組合員や組織からのカンパ、参加費などでまかっています。



山形県で行われた保養プロジェクトのようす

連絡先 -----
パルシステム生活協同組合連合会
地域活動支援課
【TEL】03-6233-7235 (平日9:00~17:30)

【避難の協同センター】

～孤立を防ぐ相談窓口～

東日本大震災後、全国にいる原発事故避難者には、避難先で公営住宅や民間賃貸住宅などが無償提供されてきました。しかし、現在この無償提供の制度が打ち切りとなった被災者が12,000人以上いると言われています。私たちの身近な地域にも、困難を抱えた自主避難者がくらしているかもしれません。

原発事故被害による避難者からの相談を無料で受ける「避難の協同センター」は、2016年7月、避難者と支援者の協力により設立されました。相談内容によって個別支援を行い、避難先自治体との福祉制度活用との同行交渉、孤立化防止の為のつながり作り、就労支援、居住支援などを行っています。



相談・交流会「よらんしょサロン」



2016年7月、設立集会

連絡先 -----
【避難者のための相談電話】
070-3185-0311
【Eメール】
hinankyodo@gmail.com

パルシステムの自主基準(独自ガイドライン)と検出限界について

パルシステムでは食品の残留放射能について**自主基準(独自ガイドライン)**を設定しています。放射線にはこれ以下なら安全という「しきい値」がないので、**基準以下であっても、放射能低減を追求します。検査の結果、自主基準を超えるものについては供給いたしません。**また、自主基準(独自ガイドライン)は継続的に見直しを行います。

自主基準(独自ガイドライン)(セシウム134,137の合計) 2014年10月より現行基準(単位Bq/kg)	国の規格基準
水、飲料、牛乳、乳製品、米、乳幼児用食品	10
青果類(きのこ類除く)、肉類、卵、魚介類、海藻類、その他食品、きのこ類(しいたけ除く)	25
しいたけ	100

※乾燥食品は生原料や摂食状態で検査します。
※乳幼児用食品は「yumyum」掲載商品とインターネットの「赤ちゃん・キッズOK食材」掲載商品。

検出限界値

検出限界(ヨウ素131、セシウム134,137それぞれ) 2016年4月1日から新基準に変更(単位Bq/kg)	
乳幼児用食品	1
水、飲料、牛乳、乳製品、米、青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品	3

●フルーツyumyumセットにセットされている果物は、検出下限値1Bq/kgで検査を行っています。

放射能検査の対象範囲について

農畜産物とその加工品	北海道を除く東日本産(新潟・長野・静岡以南の本州産)
水産物とその加工品	日本沿岸・近海・一部の北太平洋・淡水産水産物

- 青果は、北海道を除く東日本(新潟県・長野県・静岡県)の本州17都県)のカタログ掲載産地において、分類ごとに一品目以上検査をしています。注文時にあわせて公開しているオンラインの自主検査結果に検査が間に合わない品目については、供給前までには放射能検査を実施します。
- 水産物は、北海道から関東の沿岸近海のエリアを重点地域として、原料切り替わりをした月に検査を行っています。
- 検査は、ご注文にあわせて実施していますが、冷蔵・冷凍・常温の各加工品は年1回計測しています。

- 週次の「放射能関係のお知らせ」はホームページに掲載しています。
- インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川ゆめコープ・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・パルシステム茨城・パルシステム福島・パルシステム静岡・新潟ときめき生協

パルシステム
問合せセンター

☎ 0120-868-014

月～金曜日:9時～20時 / 土曜日:9時～17時

※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨

甲府センター ☎ 0120-28-5891
西桂センター ☎ 0120-32-1061
一宮センター ☎ 0120-21-9898

パルシステム群馬

高崎センター ☎ 0120-60-5118
渋川センター ☎ 0120-36-3315
東毛センター ☎ 0120-63-3735

※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。